

あすなろ

第31号

発行 弘前大学教育学部同窓会
〒036-8560 弘前市大字文京町1
TEL. 0172 (36) 2111 代表
編集事務局(仮事務局)
弘前市樹木四丁目1の24
葛西恒雄
TEL. 090-6781-4463



弘前大学教育学部同窓会会長 木村 清之助

輝ける母校にエールを

昭和二十四年に発足した新制大学は、旧制大学と比べてどこにもある軽い存在なので「駅弁大学」と陰口を言われたものです。

さて、我が母校は創立六十周年を迎えて現状はどうでしょうか。

国立大学が法人化されてから大学の競争は非常に厳しくなってきましたが、学長を中心に全学一丸となつて大学の使命である、教育・研究・社会貢献に取り組み、時々マスコミなどにも取り上げられませんが、着実に成果を上げております。五十周年の時もそうでしたが、今回の六十周年記念事業も全国的に注目を集めるような記念式典や記念事業が盛大に開催されました。このようなことが出来たのも文科省による大学の高い実績に対する予算配分や同窓会、地域社会などの支援があったからです。

十二月の六十周年記念事業常任理事会の時、学長から驚くような資料を頂きました。それは受験生向けの大学情報サイト「みんなの大学事典」(多くの異なる視点か

ら全国の大学に関するリアルな情報を発信)で、これにアクセスしたユーザー数を毎週集計していますが、なんと我が弘前大学が第一位、第二位東京大学となつていたのです。これが四週間程続いたことです。その後東奥日報に『一位早稲田大、二位弘前大、三位東京大』との記事で『以来二カ月にわたつて並み居る有名大学を差し置き、五位以内をキープしている』と報道されました。母校の目指す「日本の地方大学」も目前です。今回産学官連携・社会貢献拠点として八階建ての六十周年記念会館「コラボ弘大」が創設されました。最近学内の施設で見学を兼ねて同期会などの会合も開催されています。教育学部は改築に入りました。新しい姿が楽しみです。この度の六十周年記念事業の御協力ありがとうございました。



教育学部の一年

教育学部長 昆 正博

最初に、今年の学生の就職状況をご報告します。今年は特に厳しい状況ですが、学生諸君と就職支援委員の頑張り、同窓の皆様のご支援で一月現在、好調であつた昨年と比較して約四パーセント減の就職率を維持しています。教員以外の公務員の合格者数が増加しているのが特徴です。

次に、主な項目をご報告します。

① 校舎改修

教育学部校舎の改修の第一期工事が始まりました。三月までに完成する予定です。第一期は講義室の改修が主ですが教室の設備も充実します。第二期と第三期の工事の日程はまだ確定していませんが順調に進むものと思っております。

② 教員養成学センター

全国初の「教員養成学研究開発センター」の時限設置の最終年となります。学生の卒業支援を含む新センターの設置計画を策定しましたが、残念ながら継続の予算は認められませんでした。

今後は、学部のセンターとして継続していく予定です。

センターは「教員養成の力リキユラム」の開発・実施・効果検証・改善を通じた取り組みを全国に発信してきました。「五周年記念報告会」を二月十一日午後には教育学部第一会議室で開催します。

めをなくすることを重点課題として取り組んでいます。卒業しても附属学校を誇りに思えるような学校にしたいと努力しています。

④ 教育力向上プロジェクト

「青森県における教育力向上プロジェクト」は次年度も三、〇〇千円の予算がみとめられました。活動の詳細は教育学部のホームページをご覧ください。

今年度は新型インフルエンザで実習等大変な一年でした。しかしながら、若い優秀な教員が多数着任し、学生、教職員ともに明るい未来を目指して頑張っておりますのでご支援ください。



新しい取り組み

活躍が期待されるラポバス



更なる発展に向けて

教育学部同窓会副会長 佐々木 誠

先般、同窓会と教育学部の先生方との懇談会が開催され、久しぶりに大学の門をくぐりました。

卒業してから四十余年。八戸在住ということもあり、最近はずが遠のいてはおりますが、お蔭様でこのような同窓会の会議や研究室の卒論発表会など、年に何回かは大学を訪ねる機会があり、弘前に向かうのを楽しみにしています。

毎回のことですが、大通りに面した正門から一歩キャンパスに足を踏み入れ、正面に教育学部の建物を望むと、青春時代を過ごした昔が思い起こされ、懐かしさと共に心の昂りを覚えます。

大学構内は年々整備が進み、新しい建物が建つなど、かつて学生として過ごしたその当時とは大きく変わってはいますが、教育学部の校舎は当時そのまま、正門からの眺めには今も昔の面影を見るこ

とが出来ます。創立六十周年を迎えた我が母校弘前大学は、昭和二十四年に文理学部、教育学部、医学部の三学部で開学しており、当時の教育学部は弘前城址の東門に入った場所にあります。その校舎が現在の文京キャンパスに移転したのは昭和三十八年から、新築工事の進行に伴い順次移転が行われ、四十二年に全ての移転が完了し現在に至

っています。

昭和三十六年度入学生の私は、公園内の旧校舎の時に入学し、卒業は文京キャンパスの新校舎で迎えました。そのため、旧校舎・新校舎両方の思い出があります。振り返って思うに、私達は教育学部が成長発展する時の、大きな節目の中で学ぶことが出来た数少ない年代であったとも言えます。

ところで、今回出席した懇談会の学部説明の中で、教育学部校舎の第一期改修工事がスタートしたことをお伺いしました。現校舎を三期に分割しての改修工事、第三期の予算請求は平成二十三年度の予定とのこと。学部の歴史に新たな大きな節目を刻むことになる喜ばしい報告でした。

改修に当たっては、講座ごとに分散している研究室や実験室の集約化、複数講座が使用可能な共用実験室の設置や共用スペースの捻出、「教職実践演習」に対応可能な共通演習室の設置など、より専門性の高い教員養成に向けての機能改善を図ることです。その早期完成が待たれます。

学部では法人化に伴う運営の難しさや、少子化による教員採用人数の減少など厳しい状況の中で、新たな教育実践に向けての研究と取り組みが進められています。



教育実践総合センターの活動

センター専任教員 小山 智史

同窓会では母校の更なる発展を願い、会員の皆様と共に支援を行ってまいります。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

当センターは、教育実践研究部門、教育臨床研究部門、地域連携部門からなり、現在、太田伸也センター長の下、五名の専任教員、二名の兼任教員、一名の客員教員がそれぞれの分野で活動しています。

以下に活動のいくつかをご紹介します。

1. センター研究員

当センターでは、現職の先生方を毎年「センター研究員」として受け入れ、研究を委嘱しています。年数回行われる研究員会では、校種も教科も異なる研究員の間で活発な意見交換が行われています。今年度は七名の方がそれぞれのテーマで研究に取り組んでいます(内一名は千葉県から)。深めたいテーマは持つていても、多忙な職務の中では、自分で計画的に研究を進めることはなかなか難しいものです。私達スタッフが、研究をまとめていたいただくためのさまざまなお手伝いをしています。

2. フレンドシップ活動

学生にとって、学校外で子ども達と触れ合いながら活動する貴重な機会となっています。県や市と連携し、今年度は以下の活動に五十六名の学生が参加しています。

4. 心理臨床相談活動

弘前大学は臨床心理士養成の指定大学院に認定されており、当センターでも学外に対する心理臨床相談活動(年間100件以上)、学生に対するスーパージョン(年間50回以上)などその一端を担っています。

5. 教材・教具の開発

当センターでは、先生方と一緒にさまざまな教材・教具の開発を行っています。渦中にあるインフルエンザの流行状況を学校間で共有する「かぜねっと」システムの開発・運用や、廃校になる学校の校歌のオルゴール製作のお手伝い、また最近ではラポバスプロジェクトとして特別支援用機器の製作教室を実施しています。

3. 地域連携活動

本学が主催する「教員のための実力養成講座」の他、弘前市教育委員会主催の連携講座、むつ市教育委員会が主催する「授業づくり講座」等の研修講座における連携の窓口になっています。

お知らせ

弘前公園・みどりの相談所前の緑地内に「八重紅枝垂桜」を教育学部旧校舎跡地記念として平成13年に植樹しました。その標柱が多少腐食してきたので新しくしました。



教育学部旧校舎跡地記念樹「八重紅枝垂桜」の標柱



「算数数学教育の現状と課題」

中野 博之

戦後の教育界は「子ども中心の教育観」と「教科中心の教育観」との間を行ったり来たりしてきた。そして、算数数学は「子ども中心の教育観」に勢いがある時は批判され、「教科中心の教育観」に勢いがある時には奨励されるという存在であった。

例えば平成十年頃、教育界では「『教科中心の教育観』から『子ども中心の教育観』への転換」が叫ばれた。当時は子どもが自ら課題を設定し自ら解決する「総合的な学習」が脚光を浴び、算数数学は、子どもが設定する課題よりも教科の系統性から見た課題が重視されるものとして批判的となった。しかし、平成二十二年現在、「子ども中心の教育観」は学力低下の原因と批判され、算数数学は奨励されるべきものとなつていく。批判されたり奨励されたりする算数数学であるが、算数数学教育界の中でも、様々な意見の対立がある。今日見られる対立の一つに、「知識技能の定着」を中心とする考え方と「数学的な考え方の育成」を中心とする考え方との対立がある。これは、繰り返しのドリル練習を重視し、子ども計算技能や知識を充実させようとする教育観と、子どもの考える時間を保障し子どもの思考力を育てようとする教育

観との対立である、しかし、ドリル練習だけが知識技能を定着させていく方法なのであろうか。思考力の育成を目指した授業において、子どもが既習事項を活用することも知識技能の定着につながっていく。逆に思考力の育成を目指した授業は子どもに知識技能がある程度定着していなければ、何も進まない。つまり、「知識技能」を中心とする教育観と「数学的な考え方」を中心とする教育観は算数数学学習の中では対立するものではなく、お互いに支え合うものなのである。そして、学習指導計画を立案する際には子どもの実態に即して知識技能の定着を図る学習と思考力を重視した学習をバランスよく配当する必要がある。さらに、教師には授業の手法を適切に選択できる能力も必要とされる。数多くの教育情報誌が出版されている今日、算数数学の授業について様々な手法が紹介されている。そうした手法は、算数数学のある一面の能力を育てることに適している。しかし、それはあくまで一面であり、算数数学で育てるべき能力の全てを満足させることは、一つの授業手法だけでは無理と考えた方が妥当である。授業の手法は、目標と内容、そして、子どもの実態によって定まる。し

たがって、教師には目標、内容、子ども、によって臨機応変に授業手法を変えられる柔軟さが何より必要とされるのである。これまで述べてきたことからわ

かるように、算数数学の授業を行う教師には流行に流されない信念と、バランス感覚及び柔軟さが必要とされる。審理を追求し、教師として生涯研修し続けることがで

きる人材を一人でも多く弘前大学教育学部から輩出したいと考え、微力ながら、日々、大学での教育活動に取り組んでいる。

平成二十一年度

弘前大学教育学部・同窓会懇談会

十二月二日(水) 午後四時より

弘前大学五十周年記念会館会議室にて、平成二十一年度の教育学部と同窓会との懇談会が開催されました。学部からは昆学部長始め、教官・職員十七名が、同窓会からは木村会長以下十七名が出席しました。

担当の先生方から現況等が報告され、その後質疑応答がなされました。

◎教育学部の現況について

- 一、教育学部校舎改修状況について
- 二、教育力向上プロジェクトについて(ラボバス中心)
- 三、教員養成学研究センターの活動状況について
- 四、大学院教育学研究科の現況について
- 五、就職状況について
- 六、附属学校の現況について
- 七、その他

以上の項目について、昆学部長、北原副学部長、日景附属教員養成学研究開発センター長、小玉大学院教育学研究科運営委員長の各先

生方から説明がなされた。

◎同窓会から教育学部への要望・質問について

- 一、校舎改築の進捗状況について
- 二、今年度の教員採用状況について
- 三、教員養成学の研究開発の状況について

◎質疑応答・意見交換の内容

弘前大学は改革が急速に進んでいることを中心に説明が行われた。特にラボバスの今後の活躍が期待されること述べられた。教育学部校舎の改修が認められ三期にわたって工事が施行されることが報告された。卒業後の進路状況については教員以外にも拡大していること、県内の採用状況が厳しいことから、首都圏周辺への就職が多くなっていることなどが報告された。また、今年から先輩によるキャリア懇話会を実施した旨、報告があった。

そのあとスクーラム(生協食堂)へ移動し懇親会が開かれ、親交を深めました。



平成20年度決算

○収入の部 (20.4.1~21.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 20年度予算, 20年度決算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

○支出の部

Table with 4 columns: 支出の部, 20年度予算, 20年度決算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策費, 社会教育主事講習経費, 事務経費, 会報印刷費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

2,130,809 - 2,065,795 = 65,017 残額65,017円は次年度へ繰り越し

平成21年度予算

○収入の部 (21.4.1~22.3.31)

Table with 4 columns: 収入の部, 20年度予算, 21年度予算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

○支出の部

Table with 4 columns: 支出の部, 20年度予算, 21年度予算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策経費, 社会教育主事講習経費, 事務経費, 会報印刷費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

庶務報告

- 20. 3. 同窓会費納入依頼
20. 5. 30 会計監査
20. 6. 14 平成20年度総会
20. 6. 21 採用試験の援助活動(模擬面接)
21. 2. 21 同窓会・教育学部懇談会
21. 3. 7 会報「あすなろ30号」発行
21. 3. 24 弘前大学卒業式・祝賀会

平成二十一年度の定時総会は、平成二十一年六月十三日(土)午後二時より、弘前パークホテルにおいて開催されました。当日は二十一名が出席し、花田幸三氏(弘前市)を議長に選出し、質疑応答が行われました。質疑応答は、平成二十年度の決算報告や平成二十一年度の予算審議等の他、会報の配達や連絡方法等、会費の納入がかなり低いのでいかにすべきかなどでありました。総会後、同じ弘前パークホテルにて、昆学部長、太田事務長をお迎えし懇親会が催されました。

平成二十一年度 弘前大学教育学部同窓会 定時総会報告

事業計画

特別会計基金

- 1. 同窓会費納入依頼 《みちのく銀行関係》
2. 会計監査 7,398,711+29,047=7,421,950円
3. 平成21年度総会 7,421,950-800,000=6,621,950円(平成20年度予算へ)
4. 同窓会・教育学部懇談会
5. 会報「あすなろ31号」発行 《青森銀行関係》
6. 弘前大学卒業式・祝賀会 6,842,463+19,212=6,861,675円
7. その他 平成21年度予算へ850,000円を繰り入れ予定

平成二十一年度役員

- 名譽会長 昆 正博(学部長)
顧問 齋藤 善三(弘前市)
副会長 木村清之助(弘前市)
会長 奈良 年永(青森市)
佐々木 誠(八戸市)
相馬 正栄(平川市)
工藤 睦男(弘前市)
三浦 則孝(つがる市)
太田 耕正(つがる市)
工藤 光男(弘前市)
支部長 弘前・中郡支部 笹森 義男(弘前市)
2. 黒石・平川・南郡支部 横山 岩雄(小和森小)
3. 五所川原・北郡支部 田中 高志(昆沙門小)
4. つがる・西郡支部 内山 博文(森田小)
5. 青森・東郡支部 奈良 年永(青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 澤田 明久(八戸市)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 廣野 雅美(野辺地町)
8. むつ・下北郡支部 宮本 正信(下北教育事務所)
9. 弘前大学教育学部支部 鎌田耕太郎(教育学部)
10. その他の地区支部
1. 評議員 弘前・中郡支部 赤石 和夫(弘前市)
高岡 實(弘前市)
鈴木 弘(弘前市)
阿部 哲夫(弘前市)
松田千代治(弘前市)
岡元 淳一(弘前市)
伊藤 學(弘前市)
2. 黒石・平川・南郡支部 秋田 豊(弘前市)
奥崎 進(弘前市)
栗林 欽一(平川市)
花田 幸三(弘前市)
中畑 利文(弘前市)
立花 茂樹(弘前市)
稲葉 茂樹(弘前市)
山内 孝行(上十川小)
3. 五所川原・北郡支部 中野 雄臣(松島小)
4. つがる・西郡支部 屋敷 政勝(つがる市)
齋藤 光正(弘前市)
高橋 範隆(舞戸小)
野崎 正人(つがる市)
木村 道浩(森田小)
尾崎 修一(繁田小)
5. 青森・東郡支部 吉田 秀一(青森市)
西舘 暁子(青森市)
須藤 努(青森市)
相沢 正雄(青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 高橋 信夫(八戸市)
齋藤 正栄(三戸郡)
佐藤 俊男(田子中)
尾崎 官一(石鉢小)
千葉 力久(北稜小)
築瀬 真知雄(柏崎小)
佐々木 修(長者小)
乙山 廣政(白鷗小)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 岩田 繁雄(十和田市)
梅田 真規(六戸町)
山村 義一(三沢市)
永瀬 俊明(十和田市)
馬場せつ子(三沢市)
川村 正(三沢市)
福沢 周治(木ノ下中)
樋口 博昭(六戸小)
8. むつ・下北郡支部 工藤 魏(むつ市)
太田久美子(正津川小)
9. 弘前大学教育学部支部 村山 正明(教育学部)
平岡 恭一(教育学部)
小林 央美(教育学部)
村上 和博(附属小)
野呂 徳治(実践センター)
10. その他の地区支部 葛西 恒雄(弘前市)
兼任委員